

# IV 経営改善策

## 2. 個別課題への対応

### ⑧ KF地区荷さばき地（船客上屋を含む）

位置図



拡大図



# IV 経営改善策

## 2. 個別課題への対応

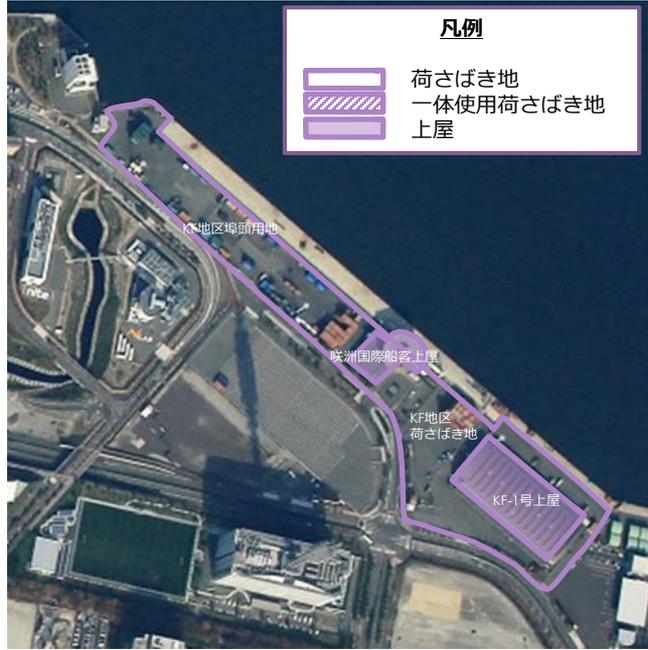
### ⑧ KF地区荷さばき地（船客上屋を含む）

#### KF地区荷さばき地の役割

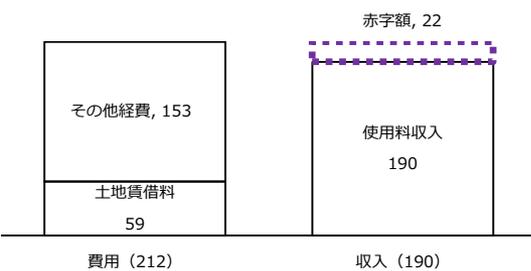
- KF地区は、KF-1及びKF-2の2バースから構成されており、背後地には咲洲国際船客上屋及びコンテナヤード、雑貨上屋等の荷さばき地施設が整備されている。
- 現在、定期船として外航フェリーが寄港している（大阪－上海便が週1便、大阪－釜山便が週3便）。

#### 収支分析などから導いた課題

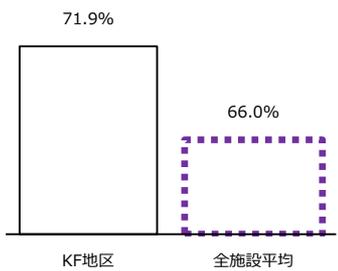
- 咲洲国際船客上屋は、旅客の入出国手続きに関する使用については使用料を徴収していない（平成26年6月から実施）ため、収支採算がとれない。



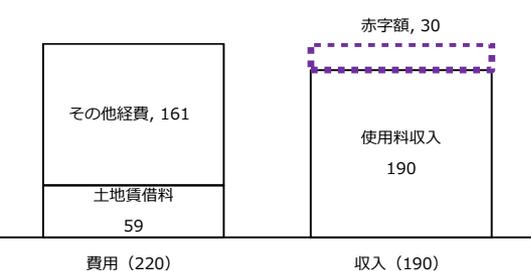
H30収支（単位：百万円）



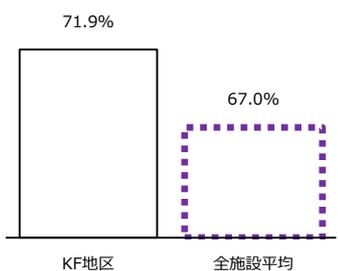
H30稼働率



R1収支（単位：百万円）



R1稼働率



#### 課題解決のための「経営改善策」

- 咲洲国際船客上屋は国際フェリーが大阪港に定着するために必要不可欠な施設であり、引き続き、港湾施設提供事業で運営していくとともに、今後も国際フェリー貨物の取扱量の増加を促進するため、競争力強化を図っていく。  
(中期的取組)
- 本荷さばき地の底地を優先的に大阪港埋立事業から取得し収支の黒字化を図る。

IV 経営改善策  
2. 個別課題への対応  
⑨ C-6、7埠頭（荷役機械を含む）

位置図



拡大図

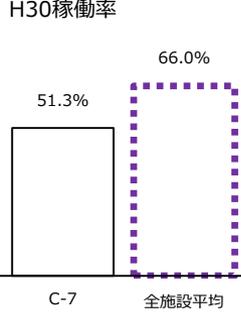
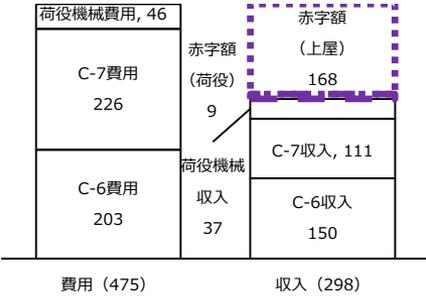


# IV 経営改善策

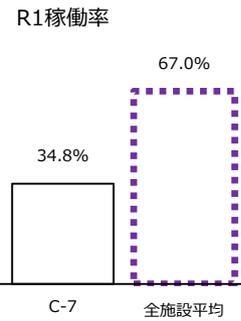
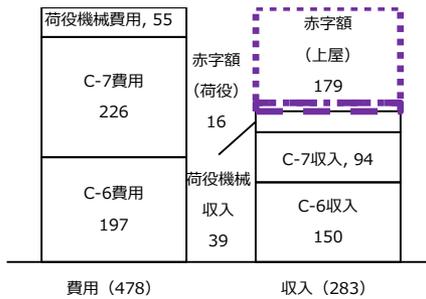
## 2. 個別課題への対応

### ⑨ C-6、7埠頭（荷役機械を含む）

H30収支（単位：百万円）



R1収支（単位：百万円）



#### C-6、7埠頭の役割

- セミコンテナ船や内航コンテナ船、外航の在来貨物を扱う船舶の優先埠頭であり、コンテナ物流を支える機能などを有している。
- 大阪港におけるセミコンテナ船の拠点として、北米向けの基幹航路の維持・強化に貢献し、また、内航コンテナ船の拠点として、外貿コンテナ取扱量の増加に貢献している。

#### 上屋倉庫事業における課題

- 本埠頭はコンテナを扱う埠頭であることから、コンテナを蔵置する荷さばき地であるが稼働率が低く、また荷さばき地共有通路を埠頭用地内に設置しており、そのことも稼働率を低下させている一因となっている。

#### 荷役機械事業における課題

- ガントリークレーンを設置してから約29年が経過しており、更新するの否かの判断が必要となっていたが、令和2年度に新設することとした。
- 収支状況は、16百万円の赤字ではあるが、ガントリークレーン新設後についてはより一層の利用促進を図り、収益増加につなげていく必要がある。

#### 課題解決のための「経営改善策」

- 「本埠頭における機能」は、国際基幹航路の受入体制や地方港湾からの集貨機能の確保を図るために必要不可欠であることから本埠頭内で維持していくこととし、ガントリークレーンを2基新設することとした。

#### (中期的取組)

- 万博開催期間中の夢洲物流車両の交通円滑化に向けた対策及び、万博終了後の活用を見据えて、「埠頭用地の面積の精査」を行う。  
 ※ガントリークレーンについては、夢洲物流車両の交通円滑化に向けた対策のひとつとして活用を検討していることから、万博終了後を見据えた取組みとして進める。